

令和元(2019)年度第1回  
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	令和元(2019)年9月10日(火) 午後1時30分～午後3時
開催場所	大田原市役所 102会議室
出席者	<p>【委員16名】</p> <p>【大田原】小林会長、玉木副会長、白石委員、磯委員、及川委員、吉岡委員、佐藤委員</p> <p>【那須塩原】荻原委員、村山委員、【那須】廣川委員、</p> <p>【那珂川】矢内委員、【棚倉】大野委員、【埴】鈴木委員、本多委員、</p> <p>【大子】大藤委員、石井委員</p> <p>【欠席委員7名】</p> <p>【オブザーバー(連携市町の担当者)5名】</p> <p>【オブザーバー(大田原市各部長)4名】</p> <p>【事務局4名】</p>

1 開会

2 挨拶 小林会長

○要旨

- ・先日の大型台風により、千葉県では大型の鉄塔が倒れ、大規模な停電が発生した。復旧に時間がかかるため、全国の電力会社から電源車を集めて、緊急性の高いところに配置する方向で地元の行政と相談していると聞いている。また、神奈川で発生した京浜急行電鉄の踏切事故に関しては、大掛かりな復旧作業が必要で、京浜急行電鉄のみでは対応できず、JRの保線関係者も作業を手伝ったという話も聞いている。平常時は自前の社員・職員、設備等で足りるが、緊急事態が起きた時には、お互いに融通しあう、貸し借りしあうといった対応が必要になるということ。災害や事故が頻繁に起こる中、本懇談会については、本来の目的そのものではないにしても、こういった形で各市町の関係者がお互いに顔を繋ぎ、知り合っておくということは、何かあった時に生きてくるのかなとこの懇談会に際して考えていた。
- ・お集まりの委員の皆様はそれぞれが柱となる、専門の分野を持っているので、それらを含めて、連携を深めていくような視点から忌憚のないご意見をいただきたい。

3 内容

- (1) 平成30年度八溝山周辺地域定住自立圏連携事業の実績について

## ○説明要旨

(資料について)

・配布資料 1 ページから 6 ページにかけて平成 30 年度の連携事業の実績を実施日順に記載してあります。黄色の色塗りをしてある事業が、連携市町から負担金をいただいで実施している事業です。

(負担金事業など主な事業の実施内容について)

- ・広域無料法律相談は、毎月第 2 木曜日に大田原市内で対象の市町に住む住民の方を対象に無料の法律相談を行っています。昨年度は 147 人の相談を受けました。市町の内訳は記載のとおりです。
- ・ポータルサイト構築・運営事業は、平成 27 年 4 月に構築した、構成市町の観光情報、イベント情報などを発信するポータルサイトの維持、運営にかかる事業です。平成 30 年度のポータルサイトアクセス総数は 77,203 人、アクセス人数は 49,418 人でした。情報掲載状況ですが、記載のとおり矢祭町から依頼をいただいた「やまつり鮎釣り大会」及び「やまつり元気祭 2018」と定住自立圏事業の「スタンプラリー」「フォトコンテスト」「婚活パーティー」の情報を掲載しました。また、定住自立圏の Facebook ページを作成し、ポータルサイトのトップ画面にページを埋め込むことで、各市町が Facebook で公開した情報を定住自立圏アカウントでシェアすることにより、ポータルサイトでも情報提供できるようにバージョンアップを行いました。
- ・スポーツイベント等実施事業（サイクルマップ作成）は、平成 28 年度の推進協議会の決定を経て、平成 29 年度の事業費で、圏域内に 160 か所のサイクルピットの設置を行い、平成 30 年度にサイクルピットの情報に掲載したマップの作成を実施しました。マップはサイクリストの多くがスマートフォンのアプリを利用していることを考慮し、紙媒体ではなく、デジタルマップで作成しました。
- ・4月10日に、栃木県知事に「ドクターヘリの導入・運航に関する要望書」を提出しました。
- ・6月17日と23日の二日間で、スポーツイベント等実施事業の「古希・還暦野球大会」を開催し、古希5チーム、還暦4チームの参加がありました。
- ・7月25日に福島県、翌26日茨城県に「ドクターヘリの導入・運航に関する要望書」を提出しました。三県への要望書の提出を受けて、8月1日に茨城県日立市で開催された「FIT構想推進協議会総会」において、北村栃木県副知事より本協議会のドクターヘリ要望活動についての情報提供が行われ、現在、三県の担当課による検討が始まっています。
- ・9月1日から平成31年1月31日まで、圏域内特産品販路拡大事業（八溝山

周辺道の駅等を巡るスタンプラリー)を開催しました。平成29年度に新規事業として実施したスタンプラリーが好評だったため、平成30年度は、のぼりやポスターを使った事業の更なるPRと、スタンプラリーの期間を長く設定するなど、規模を拡大して実施しました。対象施設は記載のとおりで、期間中の参加者総数は1,288名でした。

- ・10月2日に「第1回共生ビジョン懇談会」を開催し、18名の懇談会委員から第2次共生ビジョン策定に向けた意見等をいただきました。
- ・11月3日から4日にかけて、大田原市産業文化祭に「イベントの相互出展」事業として、6市町から12ブースの出展がありました。出展状況は記載のとおりです。
- ・11月7日に推進協議会を開催し、共生ビジョンの変更を行いました。
- ・11月24日、大田原市のなかがわ水遊園を会場に、結婚促進対策事業の「婚活パーティー」1回目を開催しました。男女の定員各15名のところ、男性14名、女性12名の参加があり、2組のカップルが成立しました。
- ・12月8日に婚活パーティーの2回目を那須町のホテルエピナール那須で開催しました。内容はスイーツ作り体験とマッチングパーティーで、参加者は男性13名、女性14名、4組のカップルが成立しました。
- ・12月24日に東京ヤクルトスワローズの真中 満前監督による小学5・6年生を対象とした野球教室を大田原市美原公園で開催しました。参加した小学生は98名でした。
- ・平成31年1月10日から、広域観光推進事業「八溝フォトコン〜八溝山周辺地域フォトコンテスト」を開催しました。平成30年1月1日から平成31年1月31日までの間に撮影された作品の募集を行い87点の応募がありました。募集した作品の使用権を推進協議会で保有することで、構成市町全てが観光パンフレット作成などの二次利用ができるようにしています。
- ・2月12日に圏域内職員を対象とした、「メンタルヘルス研修」を大田原市役所で開催し、各市町から46名の参加がありました。
- ・2月16日、17日の2日間の日程で防災研修会等実施事業による防災講演会を埴町、大田原市でそれぞれ開催しました。埴町会場では191人、大田原市会場では263人の聴講者がありました。
- ・2月19日に第2回共生ビジョン懇談会を開催しました。第2次共生ビジョン(案)をお示しし、懇談会委員より2点ほどご意見をいただきました。1点は、圏域の将来人口の推計について、「人口減少及び高齢化社会が進む中で、今以上

に福祉サービス等に携わる方が必要とされるようになり、それらに従事する外国人の受け入れをすることが、将来的なサービス等の維持に必要である。そういった意味で、外国人移住者の増加を考慮しないと正確な推計にならないのではないか。」というご意見。もう1点は、「八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン」という名称が、長すぎて読みづらく、わかりにくいため、もっと単純で短くわかりやすい名称にすることや、略称や愛称を設定することで、一般の方々への浸透を図り、だれが聞いてもこのビジョンを思い浮かべることができるようにすることが必要ではないか。」というご意見をいただきました。ご指摘いただいた点については、今後、担当する部会の中で検討していきます。

- ・2月23日にHONDAソフトボール部による小中学生を対象とした「ソフトボール教室」を大田原市美原公園野球場で開催しました。5市町から、231人の児童・生徒の参加がありました。
- ・同じく2月23日に婚活パーティーの3回目を大田原市的那須野ヶ原ファームで開催しました。内容は馬とのふれあいとスイーツ作り体験、及びマッチングパーティーで、参加者は男性15名、女性15名でした。3回目のイベントは前2回の反省や参加者からの意見を反映させ、第一印象の投票結果を参加者に知らせ、パーティーの際のアプローチの参考にさせていただくなど、参加者への細やかなサポートを行った結果7組のカップルが成立しました。
- ・3月2日に小中学生を対象とした剣道教室を、那須町スポーツセンターで開催し、148人の参加がありました。
- ・3月22日に第3回となる幹事会を開催し、第2次共生ビジョン(案)について最終の調整を行い、その後、書面により各市町において首長の下承をいただき、3月29日に第2次八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンを策定しました。

#### ○質疑・意見交換

会 長	平成30年度の事業の実績ということで、既に終わっていることについてではあるが、確認したいこと、疑問点などあればご質問等お願いしたい。
	資料の2ページに「令和1年」の表記があるが、これはなにか特別な意味があるのか。単なる間違いか。
事務局	「平成30年」の誤りです。大変失礼いたしました。
委 員	資料1ページ、「サイクルマップ作成」について、アクセス数がわかれば教えてほしい。

- 事務局 | アクセス数につきまして、事務局では把握できていません。申し訳ございません。
- 委員 | 婚活事業について、カップル成立数が実績として記載されているが、その後の経過というか、引き続き応援をするということはしているのか。
- 事務局 | 推進協議会においても、成立カップルについて後々までフォローアップをしてはどうかという意見もいただいておりますが、個人情報等の問題もあり、できていない状況です。
- 委員 | できるだけこの地域に永住、定住してもらえらるような形でのフォローをしてもらいたい。
- 事務局 | カップル成立者には、圏域内施設や婚活イベント会場となったホテル等の食事券をお渡しし、成立したカップルでまたこの圏域内でご利用いただけるような仕組みは用意していますが、現時点ではそこまでとなっています。
- 会長 | すると、そのカップルがその後どうなったかについてはわからないということか。ゴールインした場合に、連絡をもらえればなにかお祝いを差し上げるとか、特典があるとか、そういった取り組みはあるのか。ゴールインの報告をもらうようなお願いはしているのか。
- 事務局 | 昨年度の推進協議会においても同様のご意見をいただいておりますので、検討をしていきます。
- 会長 | 途中経過に介入するのは難しいと思うが、ゴールインした方には特典があるとなれば、報告はしてもらえないのか。
- 委員 | 資料4ページの「フォトコンテスト」について、応募作品はインターネット上で見られるようになっているのか。
- 事務局 | インターネット上で公開するよう準備中です。
- 委員 | 公開に併せて、利用したい場合の手続きの方法等も掲載してもらえらるようお願いしたい。
- 会長 | 2月に募集が終了しているのであれば、既に公開されているべき時期であると思う。公開のための障害があるのであればなるべく早くそれをクリアして公開できるように取り組んでほしい。
- ※確認の結果、最優秀賞1点と各市町長賞8点については八溝山周辺地域定住自立圏ポータルサイトにて公開中のため、後ほど事務局の回答を修正しました。その他の応募作品については公開の準備中です。

## (2) 八溝山周辺地域定住自立圏の今後の取組について

### ○説明要旨

(資料について)

- ・配布資料 7 ページから 10 ページにかけて「八溝山周辺地域定住自立圏第 2 次共生ビジョン具体的取組一覧」を掲載しています。この表は、一番左が共生ビジョンの頁数、赤字は第 2 次共生ビジョンの策定にあたり、事業概要の見直しを行った事業、及び新規事業になっています。

(概要に変更があった事業など主な事業の実施内容について)

- ・「ドクターヘリの導入・運航に関する要望活動事業」については、具体的な事業内容として、「ドクターヘリの導入に向けた機運を高めるための講演会」を 10 月 30 日に開催予定の定住自立圏推進協議会に併せて開催します。当日は、大田原市ふれあいの丘を会場に、ドクターヘリの実機の見学もできるような内容で調整をしています。共生ビジョン懇談会委員の皆様には、ご案内を送付いたしますので、ぜひご参加ください。
- ・「健康増進事業」については、これまで実施していた「ウォーキング推進事業」にて使用していたアプリの提供が終了することを受け、事業内容を「ウォーキングイベントの実施」に変更しました。部会内での検討の結果、令和 2 年度より連携事業として「健康セミナー」を実施することで調整を始めています。
- ・「子育て支援事業」については、ファミリーサポート会員向けのセミナー等の事業提案がありましたが、対象をファミリーサポート会員に限定せず、子育て全般に携わる方として「子育て支援事業従事者養成講座」を開催することになりました。
- ・「広域観光推進事業」は継続事業ですが、事業概要の見直しを行いました。連携事業の進捗状況ですが、「各市町で開催するイベント等への相互出展」については昨年度に引き続き、イベント情報の共有を図ります。平成 30 年度のフォトコンの最優秀 1 点、各市町長賞 8 点の計 9 作品について、各市町の庁舎等を巡回展示するような活用方法を検討しています。新たに追加した「スマートフォンのアプリケーション等を活用した観光情報発信事業」は中心市（大田原市）にて今年度の事業案を作成することとしています。
- ・「圏域内特産品販路拡大事業」は継続事業ですが、事業概要を見直し「道の駅合同観光物産展の開催」「自慢のおにぎり商品化事業」「農産物、特産品ブランド化に関する情報・意見交換会の開催」が追加されています。進捗については、産業観光部会において、昨年度までの「スタンプラリー」をブラッシュアップして今年度も開催するほか、「自慢のおにぎり商品化事業について」は開催に向けた検

討を継続していきます。

- ・「各市町広報誌への相互掲載事業」は新規事業です。圏域内のイベント等について、随時各市町から他市町へ広報誌への掲載、又は情報提供を依頼するものです。また、相互掲載とは別に、毎年度1回テーマを決めて相互に掲載することとし、今年度は「文化財」をテーマとし、10月～11月広報への掲載を目指して作業を進めています。
- ・「道路インフラ整備促進の要望活動等」は、整備要望主要路16路線について、国・県等の関係機関に対し、既存の期成同盟会の要望活動と連携して整備促進の要望活動を展開することとし、担当部局による作業を進めていることを確認しています。
- ・「交流イベント実施事業」は10月18日に大田原市が主催して実施している「企業交流会」を八溝定住の「企業交流会」として、圏域内の企業に参加を募って開催します。「合同就職説明会」は連携市町から提案をいただいたもので、今年度の企業交流会の実施状況及び参加企業へのアンケートを実施して、次年度以降の開催を検討します。
- ・「歴史・文化・芸術企画展等実施事業」は、部会において実施事業の具体的内容について協議を行い令和2年度に「八溝山が結ぶ地域の歴史・文化展」を実施します。方法は、パネルのみの巡回展示を基本とし、各市町で独自の資料があれば併せて展示できるものにできるように、課題等を整理しながらテーマも含めて引き続き実施に向けた検討を進めています。
- ・「スポーツイベント等実施事業」については、圏域の連携事業として様々な教室や交流大会を開催しておりますが、第2次共生ビジョンにおいても、スポーツ活動を通じた圏域内の交流を図っていきます。事業概要については、資料に記載のとおりです。
- ・「職員研修実施事業」は、継続事業ですが、推進協議会において提案のあった「職責や年代別、特に若手職員の研修会の開催」及び、「人口減少や市町職員削減に伴い、経営環境が厳しくなっている水道事業に従事する職員の研修・交流による技術力の維持確保」に事業概要の見直しを行っています。水道事業従事職員の研修については令和2年度より、「若手職員研修」は、今年度1月に一泊の宿泊研修として実施する予定です。
- ・「外部人材等派遣事業」は、現在、大田原市及び那須塩原市がそれぞれの市民を対象に開催している環境講演会を、令和2年度からは八溝山周辺地域定住自立圏の事業と位置づけ、八溝山周辺地域定住自立圏の圏域内住民を対象に実施する

こととしました。

- ・「八溝山 Wi-Fi アクセスポイント整備事業」は新規事業です。これまでの共生ビジョン懇談会における、携帯電話の不通話エリア解消に向けた取り組みの提案に対する取り組みとして、八溝山中や周辺の携帯電話不通話エリアにフリーWi-Fi アクセスポイントを設置することで、IP 電話サービスを利用して通話を可能にするほか、圏域内の市街地エリアについても圏域内共通の SSID で接続できる Wi-Fi アクセスポイントを整備することも含め、実現に向けた課題の整理や、機器の性能等について調査・研究に取り組むというものであります。6月に開催した企画総務部会では、無線LANアクセスポイント、及び認証システムについて検討を行い、当該システムを導入した場合のメリット、デメリット、概算事業費等について、引き続き調査・研究を進めております。
- ・今年2月に開催の平成30年度第2回共生ビジョン懇談会の際に、共生ビジョンの名称が、漢字で長く、親しみづらいとのご指摘をいただいていた件ですが、検討した結果、前述した若手職員の研修において、八溝定住の事業へ理解とともに愛称を検討してもらうことになりました。

○質疑・意見交換

会 長	確認したいこと、疑問点などあればご質問等お願いしたい。
委 員	資料9ページの「結婚促進対策事業」について、これは八溝周辺の地域の定住自立支援とあるが、これの参加者は圏内か、それとも圏外にPRしているのか。定住促進とは、近隣の方々が移住していることを指しているのか、もっと離れた地域からの誘客というか定住者を目指して取組をしているのか伺いたい。
事務局	「結婚促進対策事業」については、昨年度も実施したような婚活イベントに加え、今年度は独身の子を持つ親向けのセミナーを予定しています。参加者は、圏域内の住民を基本とし、女性については圏域外からの参加も受け付けている状況です。
委 員	するとこの取り組みの着地点はどこになるのか。事業の成果として何を求めるのか。やったという事実を残したいのか。
事務局	圏域内の定住人口を維持するための事業ですので、圏域内に住んでいただく、定住していただくことを目標に事業を実施しています。
委 員	定住していただく対象は既に圏域内に住んでいる人か、圏域外から定住していただくのか。
事務局	圏域外の参加者に圏域内で結婚していただいて住んでいただくということと、圏域外に出て行くことを防止する意味で、圏域内の参加者が結



婚することで引き続き圏域内に住みつづけるようになることを目的にしています。

委員 定住していただくという目的をもっと明確に、例えば結婚して定住する場合には税金を安くするとか、何か支援をするとか明確にしたほうが実効性、実現性があるのではないか。イベントにお金をかけるのもいいが、もっと直接本人たちに還元したほうが効果は高いと思うがどうか。

事務局 結婚をされた方に対する補助等については、各市町で取組が進んでいます。しかし、婚活のいわゆるイベントに関しては、市町単位で実施すると、同じ市町内での「あの人が婚活イベントに参加している」といった周囲の目を気にしてなかなか参加がしづらいという声もあり、もっと広い範囲で、スケールメリットを生かしてイベントを実施したほうが参加者は集まるといった事情があります。そのため、市町単独でのイベントは止めたという市町もあります。定住自立圏としては、パーティーやセミナー等のイベント実施について取り組んでもらいたいとの要望を連携市町からいただいていますので、それらを中心に事業を実施しています。

会長 定住自立圏の圏域内で、やや広域な範囲でイベントを実施することで、参加に対する抵抗感を無くしながら、圏域内参加者同士で市町間をまたがりつつも、圏域内にはとどまって結婚して子供が生まれるというのが理想なのだろうと思う。さらに、女性については圏域外からも参加が可能で、男性は圏域内の方に限っているということのようだ。

外から人を呼び込むというよりは、圏域内にいる人がより居続けられるようにするという趣旨が強いということか。

事務局 はい。現代はなかなか異性と出会う機会に乏しく、結婚したくてもできない方がいるという事実もあり、そのような方に対し、結婚に結び付く出会いの機会を提供することにより、結果的に結婚に結び付けば、圏域内への定住につながります。さらに、子どもが生まれ、その子どもも将来この圏域内に定住することになれば、長い目で見たときに、人口減少に歯止めがかかることが期待できます。他に、定住人口の確保のためには、企業誘致等により仕事を増やすことなどもあります。婚活促進の取組も、そういった定住促進の色々な方法の一つであり、これだけですべてが解決するといったものではありません。色々な定住促進、人口減少対策の一つとして、結婚に結び付く出会いの機会を提供するための事業を展開しているという整理で事務局は考えています。

会長 定住自立圏としては、圏域外からも人が入ってきてもらったほうがもちろん良いわけであり、そのために色々な取組をしているところであるが、その中でこの結婚促進事業については、今現在圏域内にいる人に向

けた事業であるという整理になる。

- 委員 資料 9 ページ「八溝山が結ぶ地域の歴史・文化展の開催」について、  
事務局 具体的にはどのような展開を考えているのか伺いたい。
- 事務局 八溝山に絡んだ共通のテーマで何か展示ができるものがないかを各市  
町の担当者が集まって検討しています。現時点では、テーマを一つには  
絞ってないようではありますが、例えば山岳信仰など、何か全市町が関  
連するテーマで展示ができないかを相談しているところです。展示方法  
としては、歴史資料や解説等のパネルを作成し、それぞれの市町の展示  
施設や庁舎のスペース等に持ち回りで展示します。それに加え、例えば  
大田原では大田原独自の資料を展示ケースに入れてパネルと一緒に展示  
をします。大田原で展示を見た方が、興味を持って他市町の展示を見に  
行くと、そこではまた、その市町独自の資料を見ることができるといっ  
た形にすることで、巡回性のある展示とすることを検討していると聞いて  
います。
- 委員 「八溝山」という一つのシンボルをしっかりとテーマに据えて取り組  
んでほしい。

資料の 10 ページ「スポーツイベント等実施事業」の「圏域内サイクリ  
ングマップの作成に関する事業」については、大いにやっていただきたい。  
茨城県には国内第 2 位の霞ヶ浦という湖があり、そこに「りんりん  
ロード」というサイクリングロードを県が整備した。筑波山に走ってい  
た鉄道路線を廃線にしてスタートからゴールまで 100km 以上に及ぶサイ  
クリングロードを作った。その取組の中で、サイクルピットの設置に  
も取り組んだのだが、サイクルピットの設置については、八溝山周辺地  
域定住自立圏の取組が 1 テンポ早かった。平成 30 年度の事業実績の説  
明の中に 160 か所のサイクルピットを設置したとあったが、その取り組  
みが終わった後に茨城県の取組がはじまった。その結果、大子町におい  
ては、同じ個所に八溝山周辺地域定住自立圏で設置したサイクルピット  
と茨城県の設置したサイクルピットが 2 つ並んでおり、非常に大きな展  
開が図れているところである。また、道路の状況は栃木県の方が進んで  
いる。りんどう湖周辺のいわゆるチャンロードには、道路の左側白線  
の内側にブルーの線が引いてある。交差点内ではその線はないが、その  
線の切れ目の前後には「どこまで何 km ですよ」「どちらの方向に行きま  
すよ」という情報が明記されている。このような道路は関東一円を見ても  
栃木県にしかないのではないか。やはり栃木県は道路の先進県だと言  
われるだけのことはあるなど感じる。このような道路を、この八溝山周

辺地域定住自立圏のエリア内に広めていただきたい。大子町は、山岳のヒルクライムロード、山を登るコースという意味で八溝山を取り上げている。八溝山は3方へ下りられる道路になっていて、先日プロのレーサーの方が来て、非常に面白いコースだということで取り上げてくれた。ただ、いわゆる路盤、道路の舗装のやり方・方法が3県でまちまちということなので、将来的に統一した路面づくりをしてはどうかという提案をされていた。なので、サイクルマップの取組だけでなく、サイクルツーリズムの推進に向けた取り組みを継続的に展開していただきたい。

会 長 大変具体的かつ建設的なお話をいただいた。ぜひ事務局でよく内容を吟味して、積極的に取り組んでほしい。

副会長 共生ビジョン 45 ページ「各市町広報誌への相互掲載事業」に関し、各市町のお祭りやイベント等の情報をお互いの広報誌へ継続して掲載するような取組をぜひ展開してほしい。例えば、大子町では「大子まつり」や「もみじまつり」といったいいお祭りがあり、行きたいと思うが情報がないので、商工会長へ直接電話して教えてもらっている。各市町で定期的に情報提供を行い、各市町広報誌に「八溝定住コーナー」のようなものを作って定期的に掲載していくことで、圏域内市町間で相互に人の行き来が生まれる。お祭りはそれぞれの地域の文化が象徴的に表れたものでもあるのでぜひ定期的な掲載に取り組んでほしい。

会 長 現在の取組の状況、また、今後の取組の予定についてはどうなっているか。

事務局 広報誌への相互掲載に関しては、2年前までは特に何も取り組んでいない状況でした。昨年度に各市町の広報誌に特集ページを設け、各市町の桜の情報を集約して掲載する取組を試験的に実施しました。その結果、担当者においては手ごたえを感じられたこともあり、今年度は、情報を集約するタイムロス無くすために各市町間で相互に直接情報をやり取りできるような仕組みとしました。しかし、各市町担当者の話によると、市町によっては紙面のスペースの問題があり、スペースが許す限りはぜひ掲載したいが、必ずしも提供された情報が掲載できるわけではないとのことでした。また、定住自立圏域内全域で掲載しなくてもいいが、近隣の市町にはぜひ掲載してほしいといった場合もあるため、各市町の広報担当者間でより柔軟に連絡を取り合い、情報のやり取りができるような体制ができ始めたところです。今年度からは、相互の情報掲載が活発化していくのではないかと考えています。

コーナーを設けて定期的に掲載するという点についても、担当者の会議の際に検討されましたが、やはりページ数、スペースの都合で課題があ

るということでありましたので、今後継続して検討を続け、相互掲載の活発化が進んでいく過程で可能となっていくのではないかと考えております。

会 長 懇談会においてこのような意見が出たということを伝え、可能な範囲で積極的に取り組めるよう、よろしくお願ひしたい。

### (3) 意見交換

#### ○説明要旨

(共生ビジョンの変更点について)

- ・共生ビジョン 20 ページの表は、定住自立圏構想推進要綱に基づき、中心市と連携市町の間において、相互に役割を分担し、人口定住に必要な都市機能及び生活機能を確保し、充実させるとともに、地域活性化に努め、住民が安心して暮らし続ける圏域を形成することを目的として、平成 26 年 1 月に締結した協定項目の一覧になっています。第 2 次共生ビジョンの策定にあたり、これまでの連携事業の実施内容の見直しを行ったところ、「生活機能の強化に係る政策分野」及び、「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」において、大子町も連携して実施する事業が拡大することになったため、現在、大田原市と大子町の議会において、協定の一部変更について 9 月議会に議案を上程し、議会の議決を経て、協定の締結を行う予定です。
- ・23 ページ以降に「定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組」を記載しておりますが、各事業の令和元年度の事業費見込み額を記載しています。
- ・共生ビジョンは、この後、本懇談会委員の皆様からのご意見等をお伺いしたうえで見直しを行い、10 月 30 日に開催の推進協議会において決定します。

#### ○意見交換

委 員 共生ビジョンの 21 ページに「電気自動車等の導入促進」とある。大田原市内にも大きな病院や公共施設があり、電気自動車の充電設備も充実してきたところである。ところが、それら充電設備の規格が統一されておらず、場所により充電にかかる時間が大幅に違う、満充電までできない等の問題がある。電気自動車で訪れる観光客が年々増えている状況で、これらを統一した規格というか、容量を定めてほしい。あるいは、独自の基準を設けて圏域内の充電設備について「ここの充電設備は大型です」「ここは小型です」といった情報を提供することも、来訪客へのサービスとして大事なことである。山岳コースでもあり、平地なら 100km 走れ

るところが 30km しか走れないというところもたまにあるので、その辺についての検討も含めて、この電気自動車の取組をすすめてほしい。

会 長 「電気自動車で安心して走れるエリア」といった売りがあってもいい。「山が多いけれどこれだけ安心だ」ということをマップか何かで示せるといい。簡単に役所だけでどうにかできることでもなく、色々な事業者等を巻き込む必要もあると思うが、研究課題となりうるものでもあるので、情報収集も必要であるが、ぜひよろしくお願ひしたい。

委 員 共生ビジョンの 20 ページから 22 ページを見ると、定住自立圏の圏域内に向けた魅力の拡充とか、サービスの拡充、拡大といったことが書かれている。圏域外からの定住を促進するという趣旨はそんなに強くなく、圏域内が良くなれば自然に外からも人は入ってくるというような考えで、とりあえずは八溝の中を拡充拡大した整備をしていくというか、魅力を高めていくという考えでいいのか。

事務局 定住自立圏の大きな目標として、圏域内の環境を整え、人口減少に歯止めをかけることがあります。圏域外の人をどうするというよりも、現在の人口を維持することを目標として取り組んでいます。

会 長 各市町で、地域創造戦略等の中でどうやって外から人を呼び込むかといった議論をしている。定住自立圏の取組と連動する部分はあるものの、定住自立圏の考え方としては圏域内の利便性を高める等の取組が中心となるということ。

ドクターヘリの導入要望活動については、機運醸成を図るということで、それはいいことだが、現実的に何か動きそうな見通しはあるのか。

事務局 八溝山周辺地域定住自立圏の圏域は、栃木県、福島県、茨城県それぞれのドクターヘリ基地から距離が遠いという状況から、栃木県としては 2 機目となる那須赤十字病院を基地病院とするドクターヘリの導入について三県の知事への要望活動を行いました。FIT 推進協議会の総会においても、大田原市長が必要性的について話をさせていただいたところです。それを受け、今年の 5 月に栃木県の担当者より、栃木県としての考え方について説明を受けました。「栃木県と茨城県、群馬県とでドクターヘリの相互応援をしていて、その出動範囲が概ね 50km 圏の範囲となっている。栃木県としては、その範囲をあと 20km から 25km 程度広げることができれば、八溝山周辺地域定住自立圏の圏域内はカバーできると考えている。栃木県としても、2 機目が導入できればそれはいいに決まっている、導入できるに越したことはないと考えているが、コストを考えた場合には 2 機目の導入はなかなか難しい。現に 2 機以上のヘリが運

航されている道県もあるものの、まだ1機も導入されていない都県もあり、そちらに先に導入するのが筋であろうというのが国の考え方だ」という説明でありました。栃木県としては、茨城県、群馬県との相互応援の出動範囲の拡大によって対応していきたいとの考え方だということです。事務局としては、2機目の導入に係る要望活動がなければ、栃木県の言う相互応援の出動範囲拡大の話もなかったであろうことから、一歩前進と捉えられると考えています。ただ、だからといってこれで終わりではなく、継続して要望は続けていきたいと考えていますので、10月に開催する講演会に合わせて、実際にヘリを用意し、飛ばしてみ、可能なら関係市町の首長さんらに乗っていただいて、ヘリの有効性等について再度考えていきたいと考えています。

副会長

ドクターヘリの導入については、費用負担の問題もあるため、三県の合意がなくては進まない。栃木県の商工会議所連合会では、那須赤十字病院のドクターヘリ基地病院化を2年継続して要望している。相互応援の出動範囲拡大の理屈は理解できるが、基地からの距離が遠いことには変わりがない。心疾患、脳疾患は時間が勝負であり、山間部や距離の離れた地域の方は手遅れになってもいいということにはならない。そう考えてはいけない。引き続き商工団体としても要望を続けていきたいと考えている。関東ブロックでつながりのある茨城県の商工会議所連合会にも働きかけをしていきたいと考えている。

#### 4 その他

(事務連絡)

##### (1) 共生ビジョン懇談会の開催回数について

- ・共生ビジョン懇談会は、民間や地域の関係者を構成員とした協議・懇談の場で、定住自立圏の目指す将来像や具体的な取組を示す「共生ビジョン」の策定又は変更にあたっては、この懇談会における協議を経ることとなっています。
- ・懇談会は、第2次共生ビジョン策定の時期であった平成30年度を例外として、例年は7月と9月の年2回開催をしていました。しかし、例えば、7月に懇談会でいただいた意見については、同年9月の懇談会までに共生ビジョンに反映させることはできず、連絡調整会議や推進協議会での協議、部会での詳細な検討を経て、定住自立圏の具体的な取組として実施することになった場合であっても、予算措置等の関係上、早くて翌年度の10月の共生ビジョン改定のタイミングに反映されることとなります。また、八溝山定住自立圏において最初の共生ビジョ

ンを策定し、具体的な取組が開始されてから5年が経過し、懇談会委員の共生ビジョンに対する理解が得られていることや、懇談会委員の負担軽減の面からも、懇談会委員の改選の年は、新たな委員への共生ビジョンの説明もあるため、4月又は5月に1回目の懇談会を開催し、2回目を推進協議会前に開催することとし、懇談会委員が2年目の年については、推進協議会前の1回の開催としたいと考え、小林会長に相談させていただいたところ、了承をいただきました。したがって、現在の八溝定住でいえば、令和元（2019）年度は今回の1回とし、令和2年度は懇談会委員の改選の年になるため年2回の開催といたします。ご理解をいただきますようお願いいたします。

## （2）共生ビジョン懇談会の会議録・改定後共生ビジョンの送付について

- ・本懇談会の会議録は後日郵送いたしますので、ご確認をお願いいたします。
- ・本懇談会にてご意見をいただきました「共生ビジョン（案）」については、10月30日に開催予定の推進協議会において、今年度の改定を行い、改めて郵送いたします。
- ・本共生ビジョンは毎年度改定されるものであることから、費用をかけて印刷会社での製本を行うには適さないと判断し、コピー用紙に印刷して作成してはいますが、会長より、定住自立圏事業の基本的な計画としてはみすぼらしいのではないかとの意見をいただいております。事務局で検討した結果、専用のバインダーを作成し差し替え式の冊子とすることとしました。改訂版の共生ビジョン郵送に併せてバインダーもお送りしますので、ご利用をお願いいたします。  
（意見等）
- ・資料等はデータでもいいのでは。タブレット等で閲覧できれば。（委員）  
→データによる配布の場合、対応できない委員もいるため、紙媒体での配布としていますが、今後は検討させていただきます。